

## アジアインフラ投資銀行設立の背景と中国の戦略

対外経済貿易大学 西村友作

2015年12月25日、中国主導で設立が進められてきたアジアインフラ投資銀行（Asian Infrastructure Investment Bank, AIIB）が発足した。アジアの発展途上国のみならず、欧州の英国やドイツ、フランス、イタリアといった主要7カ国（G7）を含む多くの先進国までもが加盟し、創設メンバーは57カ国に上った。

AIIBは、2015年3月にイギリスが参加を正式に表明した「英国ショック」を転換点に、それまでの「新興国による新興国のための金融機関」から、2017年6月には多くの先進国を含む80カ国・地域が加盟する巨大な国際開発金融機関へと発展を遂げた。本稿では、そのAIIBを主導する中国の国家戦略に着目し、中国のAIIB戦略とその手段や効果について「世界経済ガバナンスにおける制度的発言権」、「一带一路構想」、「人民元国際化」、「中国企業による国際建設受注とインフラ輸出」の4つの視点から考察をおこなった。

AIIBは先進諸国を含む多国間の開発金融機関であり、中国が自国の国家戦略を優先するような運営をおこなえば、不満を持った加盟国の脱退や格付けの引き下げといったリスクもはらんでいる。発足から約2年の運営状況を見てみると、国際機関としての信認を得るために、極力中国色を消した慎重な姿勢が目立つ。借入国の選定や入札手続き、人民元建て債券の発行といった物議を醸すような業務に関しては、当面はしっかりと既存のルールにしたがって進めていくであろう。したがって、本稿で考察した「世界経済ガバナンスにおける制度的発言権」、「一带一路構想」、「人民元国際化」、「中国企業による国際建設受注とインフラ輸出」は、短期的なものではなく、比較的長い時間を伴いながら徐々にその効果が表れてくるであろう。

中国はAIIBを通じて新興国の力を集約し、世界経済におけるパワーバランスの再構築を緩やかな形で進めていくと考えられる。